

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3127050号
(U3127050)

(45) 発行日 平成18年11月16日(2006.11.16)

(24) 登録日 平成18年10月25日(2006.10.25)

(51) Int. Cl.

F I

E O 4 H 4/00 (2006.01)
 A 6 3 B 69/12 (2006.01)
 A 6 3 B 22/06 (2006.01)
 A 6 3 B 22/04 (2006.01)
 A 6 3 B 23/04 (2006.01)

E O 4 H 3/18 5 O 2 Z
 A 6 3 B 69/12 Z
 A 6 3 B 22/06 G
 A 6 3 B 22/04
 A 6 3 B 23/04 C

評価書の請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 11 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 実願2006-7269 (U2006-7269)

(22) 出願日 平成18年9月7日(2006.9.7)

(73) 実用新案権者 392033141

株式会社ダイレオ

大阪府大阪市東住吉区中野4丁目17番3号

(74) 代理人 100085316

弁理士 福島 三雄

(74) 代理人 100110685

弁理士 小山 方宜

(74) 代理人 100124947

弁理士 向江 正幸

(74) 代理人 100140969

弁理士 高崎 真行

(72) 考案者 中山 福三

大阪府大阪市東住吉区中野4丁目17番3号 株式会社ダイレオ内

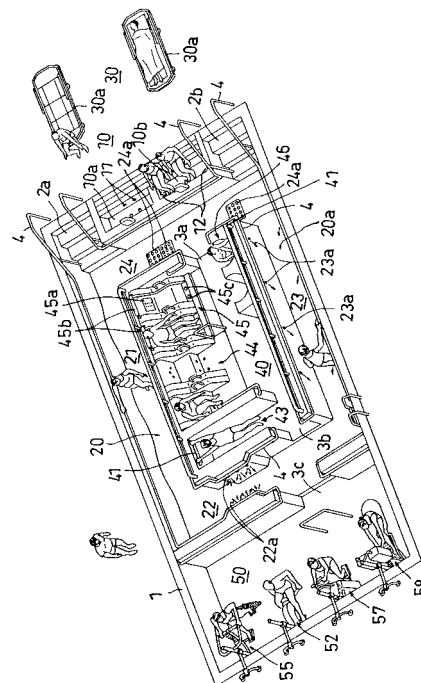
(54) 【考案の名称】 アクアウェルラウンドステーション

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】ウォーミングアップ、トレーニング及びリラクゼーションとバランスのとれた訓練を実施するのに必要な各種運動装置を備えたプール施設であって、該運動装置が1つのプール槽内及びそのプールサイドに秩序良くまとめて配置され、一連の連続した流れの中で繰り返し各種訓練を行えるアクアウェルラウンドステーションを提供する。

【解決手段】ウォーミングアップエリア及びリラクゼーションエリアをプールサイドに配置し、プール槽内の一侧に負荷型トレーニングエリアが設けられ、前記負荷型トレーニングエリアに隣接する前記プール槽内に、ループ状のトラックを備えたウォーキングエリアが設けられ、前記トラックの内側空間に、非負荷型トレーニングエリアが設けられ、各エリア間には、それぞれ出入りのための連絡通路が設けられている。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

1つのプール槽内およびそのプールサイドに、健康増進用若しくは介護予防用の水中エクササイズを実施するための複数のエリアを配置したプール施設であって、ウォーミングアップエリア、ウォーキングエリア、負荷型トレーニングエリア、非負荷型トレーニングエリア、及びリラクゼーションエリアが設けられたことを特徴とするアクアウェルラウンドステーション。

【請求項 2】

請求項 1 において、ウォーキングエリア、負荷型トレーニングエリア、及び非負荷型トレーニングエリアが、プール槽内に配置されたことを特徴とするアクアウェルラウンドステーション。 10

【請求項 3】

請求項 2 において、
プール槽内の一侧に負荷型トレーニングエリアが設けられ、
前記負荷型トレーニングエリアに隣接する前記プール槽内に、ループ状のトラックを備えたウォーキングエリアが設けられ、
前記トラックの内側空間に、非負荷型トレーニングエリアが設けられ、
前記ウォーキングエリアと前記負荷型トレーニングエリアとの間、及び、前記ウォーキングエリアと前記非負荷型トレーニングエリアとの間に、それぞれ出入りのための連絡通路が設けられた 20
ことを特徴とするアクアウェルラウンドステーション。

【請求項 4】

請求項 1 から 3 のいずれかにおいて、ウォーミングアップエリアが、プールサイドと同じ垂直レベルで、プール槽内に食い込む位置に設置され、プール槽と一体化したことを特徴とするアクアウェルラウンドステーション。

【請求項 5】

請求項 1 から 4 のいずれかにおいて、ウォーミングアップエリアが、冷水浴槽と温水浴槽とが並列して設置されている冷温足湯であることを特徴とするアクアウェルラウンドステーション。

【請求項 6】

請求項 5 において、冷温足湯が、
足に噴流を吹き付けるジェット機構を浴槽内部に備える冷水浴槽と、
前記ジェット機構および足に超微電圧による刺激を与える電気浴器を浴槽内部に備える温水浴槽と、
からなることを特徴とするアクアウェルラウンドステーション。 30

【請求項 7】

請求項 1 から 6 のいずれかにおいて、リラクゼーションエリアに、遠赤外線を放射する作用を有する岩石を用いてベッド状に形成した岩温ベッドが設けられていることを特徴とするアクアウェルラウンドステーション。

【請求項 8】

埋設式にも据置式にも制作可能なことを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれかに記載のアクアウェルラウンドステーション。 40

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、1つのプール内で、各種の健康増進用若しくは介護予防用の運動を効率良く行うことができるアクアウェルラウンドステーションに関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、高齢者や障害者などが無理なく運動を行うための水中エクササイズ機能を備えた 50

プール施設が知られている。しかしそれらは、バランスのとれた訓練を行うために必要な各種運動機器がまとめて備わっていない小規模施設であったり、各種運動機器は備わっているものの、大型プールが複数連なった施設等、移動に手間がかかる大規模施設であったりする。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

そこで、本考案の目的は、ウォーミングアップ、トレーニング及びリラクゼーションとバランスのとれた訓練を実施するのに必要な各種運動装置を備えたプール施設であって、該運動装置が1つのプール槽内及びそのプールサイドに秩序良くまとめて配置され、一連の連続した流れの中で繰り返し各種訓練を行えるアクアウェルラウンドステーションを提供することにある。

10

【課題を解決するための手段】

【0004】

上記目的を達成するため、本考案のアクアウェルラウンドステーションは、1つのプール槽内およびそのプールサイドに、健康増進用若しくは介護予防用の水中エクササイズを実施するための複数のエリアを配置したプール施設において、ウォーミングアップ、ウォーキング、負荷型トレーニング、非負荷型トレーニング、及びリラクゼーションを行うためのエリアが設けられたことを特徴とする。複数のエリアが1ヵ所にまとめて設置されているため、運動する人は、専門の指導士の指導に基づいた、あるいは自らの身体能力や嗜好に応じた運動プログラムの設定及び実行が容易となり、繰り返し訓練を行うことができる。

20

【0005】

また、上記目的を達成するため、請求項1に記載のアクアウェルラウンドステーションにおいて、少なくとも、ウォーキングエリア、負荷型トレーニングエリア、及び非負荷型トレーニングエリアが、プール槽内に配置されていることが好ましい。身体、特に下半身への負荷が大きい前記各エリアでの運動を浮力が働く水中で行うことで、転倒の危険性が軽減されるとともに、腰や膝その他の関節への負担を軽減しつつ効果的な運動を快適に行うことができる。

【0006】

30

また、上記目的を達成するため、請求項2に記載のアクアウェルラウンドステーションにおいて、プール槽内の一侧に負荷型トレーニングエリアが設けられ、前記負荷型トレーニングエリアに隣接する前記プール槽内に、ループ状のトラックを備えたウォーキングエリアが設けられ、前記トラックの内側空間に、非負荷型トレーニングエリアが設けられ、前記ウォーキングエリアと前記負荷型トレーニングエリアとの間、及び、前記ウォーキングエリアと前記非負荷型トレーニングエリアとの間には、それぞれ出入りのための連絡通路が設けられていることが好ましい。このような構成により、限られた設置スペースを最大限に有効利用できるとともに、一連の連続した流れの中で各種の運動を行える。

【0007】

また、上記目的を達成するため、請求項1から3のいずれかに記載のアクアウェルラウンドステーションにおいて、ウォーミングアップエリアが、プールサイドと同じ垂直レベルで、プール槽内に食い込む位置に設置され、プール槽と一体化していることが好ましい。これにより、運動をする人は、プール槽内で運動を行っている人と接しながらウォーミングアップを行うことができ、施設の社交性及び一体感が向上する。

40

【0008】

なお、ウォーミングアップエリアには、冷温足湯を設けて構成する場合と、冷温足湯を設けず構成する場合とがある。

【0009】

また、上記目的を達成するため、請求項1から4のいずれかに記載のアクアウェルラウンドステーションにおいて、ウォーミングアップエリアが、冷水浴槽と温水浴槽とが並列

50

して設置されている冷温足湯であることが好ましい。これにより、副交感神経と交感神経が刺激され、身体の機能を調整することができる。

【0010】

また、上記目的を達成するため、請求項5に記載のアクアウェルラウンドステーションにおいて、冷温足湯が、足に噴流を吹き付けるジェット機構を浴槽内部に備える冷水浴槽と、前記ジェット機構および足に超微電圧による刺激を与える電気浴器を浴槽内部に備える温水浴槽とからなることが好ましい。これにより、前記冷温足湯の効果にプラスして、足の筋肉を適度に揉みほぐすマッサージ効果が得られる。

【0011】

また、上記目的を達成するため、請求項1から5のいずれかに記載のアクアウェルラウンドステーションにおいて、リラクゼーションエリアに、遠赤外線を放射する作用を有する岩石を用いてベッド状に形成した岩温ベッドが設けられることが好ましい。これにより、石から発せられる遠赤外線が身体を芯から温め、身体 of 自然な作用により発汗を促し、その汗と共に体内の有害物質が体外へ排出されるので、疲労回復の効果を高めることができる。このとき、利用者をタオルケット状のもので覆うことで、ゆっくりとした発汗によりデトックス（解毒）効果を高めることができ、また、岩盤の上にバスタオルを敷くことで、低温ヤケドを防止することができてより好ましい。

【0012】

また、上記目的を達成するため、請求項1から6のいずれかに記載のアクアウェルラウンドステーションにおいて、埋設式にも据置式にも構成可能になっていることが好ましい。これにより、設置場所のスペース、形状、及び周囲の環境に適合したプール施設を敷設することができる。

【考案の効果】

【0013】

本考案のアクアウェルラウンドステーションにおいては、運動プログラムのバリエーションを付けるのが極めて容易であるため、各個人のレベルや嗜好に合わせることが容易であるばかりでなく、飽きが来ないようにすることができる。さらには、比較的小規模なスペースに複数のエリアがまとめられていることから、運動する人同士が触れ合う機会が多く、社交の場としての機能も付加されているので、孤独感を感じることも無く、水中エクササイズを楽しく繰り返すことができる。

【0014】

また、運動前の準備及び運動後のケアに対する配慮が行きとどいているので、心身ともに十分にリラックスした状態で、筋力向上等のためのエクササイズを行うことができ、水中エクササイズの効果をさらに高めることができる。

【0015】

しかも、一つのプール槽内およびそのプールサイドという限られた設置スペースを、最大限に有効に利用できる。また、水中には、メンテナンスを要するような複雑な装置がなく、維持管理及び清掃も容易である。さらに、プール施設の形状及び構造も機能に比べてシンプルに設計されているため、構築に要する費用も最小限に抑えることができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0016】

本考案の一実施形態について、図1を用いて説明する。

【0017】

図1は本考案にかかるアクアウェルラウンドステーションの全体を示す斜視図である。アクアウェルラウンドステーションというのは、多くの種類の運動エリアを一体的に備えているプール施設のことをいい、各運動エリアはプール槽内あるいはそのプールサイドに互いに何らかの関連を有しながら設けられている。この実施形態では、プール槽1の右側の奥側と手前側にそれぞれ階段2a及び2bが設けられ、その間には、ウォーミングアップエリア10を構成する冷水浴槽10aと温水浴槽10bが並列して配置されている。前記階段2a、2bはウォーキングエリア20を構成するトラック20aに連絡している。

前記トラック 20 a は前記プール槽 1 の左側を除く大部分を周回するループ状に構成されている。前記プール槽 1 の左側には負荷型トレーニングエリア 50 が配置されており、図示の例では 4 種の負荷型の水中エクササイズ装置 52、55、57、58 がプールサイドに並列して接合されている。前記トラック 20 a の内側空間には非負荷型トレーニングエリア 40 が配置されており、図示の例では 4 種の非負荷型の水中エクササイズ装置 43、44、45、46 が設置されている。前記プール槽 1 内に配置されている前記ウォーキングエリア 20、負荷型トレーニングエリア 50、及び非負荷型トレーニングエリア 40 は、それぞれ隔壁で仕切られているが、出入りのための連絡通路 3 a、3 b、3 c が設けられている。そして、前記階段 2 a、2 b 及び前記プール槽 1 内の各エリア内の歩行経路沿いには、手摺り 4 が設けられている。また、プールサイドにはリラクゼーションエリア 30 が配置され、図示の例では、リラクゼーション用の機能を備えたベッド 30 a が 2 台設けられている。

【0018】

図 1 はウォーミングアップエリア 10 に配置される装置の一例として、冷温足湯を示している。この冷温足湯は、冷水浴槽 10 a と温水浴槽 10 b とが並列して設置されている。利用者は温水槽、冷水槽の順に、好ましくは温水 5 分、冷水 2 分のサイクルで 1 人 1 サイクル、プールサイドに腰掛ける態様で足のみを入浴させる。これにより、副交感神経と交感神経が刺激され、身体の機能を良コンディションに調整する。両浴槽の水温は、冷水浴槽 10 a が 20 で温水浴槽 10 b が 42 となっていることが、前記効果を高める上で好ましい。

【0019】

また、前記冷水浴槽 10 a 及び温水浴槽 10 b の内部にジェット水流または気泡流を噴出するノズル 11 を取り付けると、足の筋肉が適度に揉みほぐされるマッサージ効果も加わり好ましく、さらに、前記ジェット水流または気泡流を噴出するノズル 11 に、空気を用いない方式のジェット装置を採用すると、気泡（エアロゾル）の発生を防ぐことができ、ジェットでのレジオネラ菌などの感染を心配しなくてもよく、従来設備と比較して衛生面において優れ一層好ましい。

【0020】

なお、前記空気を用いない方式のジェット装置の設置場所は、マッサージする足の部位を考慮し、浴槽の底面または側面に適宜に選択してよいが、水面までが 20 cm 未満の水 30 深で使用すると、水圧の加減で泡が発生する可能性があることから、20 cm より下がった位置に設置すべきである。また、適当な脈動によるマッサージ効果を得る為には、ノズルの先端部と人体との間隔は 0 ~ 10 cm とすることが好適である。

【0021】

さらに、温水浴槽 10 b 側面に電極板 12 を取り付け、超微電圧の刺激によるマッサージ効果を付加するとより一層好ましい。使用例としては、1 または 2 台の電源装置（100 V 専用）を用い、電極板 12 を取り付け間隔 1 ~ 1.5 m で浴槽側面に設置し、1 ~ 5 V の超微電圧をかける。これにより、安全性にも問題なく、気持ちのいい刺激で健康的なマッサージを施すことができる。

【0022】

ウォーキングエリア 20 の構成について、実際のトレーニング例に従い、図 1 を用いて説明する。

【0023】

運動する人は前記冷温足湯で入水準備をし、前記階段 2 a からプール槽 1 内に入り、最初に底面が波打って形成されているアップダウンゾーン 21 を歩行することでバランス感覚を鍛える。水中で該運動を行うことで、仮にバランスを崩して転びそうになっても怪我することはなく、それでも高齢者等で歩行に不安を感じる者は両側に設置されている手摺り 4 を利用すればよい。

【0024】

続いて、運動する人は、ジェット水流を噴出するノズル 22 a が前記トラック 20 a の

10

20

30

40

50

側面に設置されているジェットゾーン 2 2 を通過することで、太腿の筋肉にマッサージを施す。アップダウンゾーン 2 1 の歩行の際には、足の筋肉に通常時とは異なる力と緊張がかかるため、その疲労をマッサージで和らげるとともに、次のステップに向けての英気を養う。前記ジェット水流を噴出するノズル 2 2 a は、図示の例では、通路の片側に 3 個、両側で合計 6 個が並列して配置され、各々ふくらはぎ、太腿、腰程度の高さに噴出口を有する。

【 0 0 2 5 】

さらに、運動する人は、進行方法とは逆向きの流水圧を発生させる噴流装置 2 3 a が前記トラック 2 0 a の側面に設置されている流水ジェットゾーン 2 3 を歩行することで筋力を鍛える。運動する人は流水圧による負荷を受けながら歩行するため、通常の水の中歩行よりも高い筋力アップ効果が見込まれる。前記噴流装置 2 3 a は、図示の例では、通路の片側に 4 個、両側で合計 8 個が並列して配置され、各々ふくらはぎ、太腿、腰程度の高さに噴出口を有する。

10

【 0 0 2 6 】

最後に、運動する人は、歩行者の足裏のつばを刺激可能な足つば用突起部を有するシート 2 4 a が前記トラック 2 0 a の底面に敷詰められた足つばゾーン 2 4 を歩行することで足裏を鍛える。足つばを突起部で集中的に刺激することで、前記アップダウンゾーン 2 1 及び流水ジェットゾーン 2 3 で疲労した足裏の筋肉を揉みほぐしつつ鍛えることができ、例えば日常において足裏がつったりするようなことも防止できる。前記シート 2 4 a は、図示の例では、足つばゾーン 2 4 に 2 箇所に分断して合計 3 枚が敷かれている。

20

【 0 0 2 7 】

以上の、アップダウンゾーン 2 1、ジェットゾーン 2 2、流水ジェットゾーン 2 3 及び足つばゾーン 2 4 における一連の運動メニューを、例えば 5 ~ 1 0 周連続して行うことで、転倒防止に効果があるバランス感覚を養えるとともに、下半身の筋力アップ、及びストレッチ運動もバランス良くこなす事ができ、次のステップである負荷型トレーニングも安全に行える。

【 0 0 2 8 】

負荷型トレーニングエリア 5 0 には、負荷型の水中エクササイズ装置 5 2 , 5 5 , 5 7 , 5 8 がプールサイドに対面して支持され、並列して配置されている。このように数種のエクササイズ装置が並んで配置されることにより、運動する人は、エクササイズ中に両隣の他の運動する人と会話を行うことができ、また会話を交わさないとしても孤独感から解放される。また、フロートの浮力や水の抵抗に基づく負荷を与えるものであるため、負荷の程度を運動する人のレベルに応じて適宜調整できる他、なめらかな安定した負荷により、安全に効果的かつ無理のないトレーニングを行うことができる。

30

【 0 0 2 9 】

前記負荷型の水中エクササイズ装置 5 2 , 5 5 , 5 7 , 5 8 は、フロートの浮力または水の抵抗によって運動負荷を与えるための機構と、前記プールサイドに対面するように運動する人の姿勢を維持するための把持部および支持部と、これらを前記プールサイドから支持する金属製のフレーム構造とを備える。

【 0 0 3 0 】

これら水中エクササイズ装置は、容易に水中から取り出して、洗浄や取り替えを行うことができる。

40

【 0 0 3 1 】

図 2 は、前記負荷型トレーニングゾーン 5 0 に配置される水中エクササイズ装置の一例としてサイクリング動作式のものを示している。このサイクリング動作式の水中エクササイズ装置 5 2 は、プール槽 1 の側壁に支持される枠体 5 1 2 と、これに取り付けられたペダル負荷生成部 5 2 2 と、そのペダル負荷生成部 5 2 2 と内部で連結しているペダル 5 2 1 と、ペダル負荷生成部 5 2 2 に取り付けられた運動する人が座るシート 5 2 3 と、シート 5 2 3 に取り付けられたバー 5 2 4 とから構成されている。

【 0 0 3 2 】

50

このサイクリング動作式の水中エクササイズ装置 5 2 は、バー 5 2 4 を握って後方へ体重を傾け、水の抵抗による運動負荷を受けてペダル 5 2 1 に回転運動を与えるもので、下半身の太腿四頭筋、膝腱、腓腹筋、大臀筋、股関節屈筋、前脛骨筋などを鍛える。

【 0 0 3 3 】

図 3 は、前記負荷型トレーニングゾーン 5 0 に配置される水中エクササイズ装置の一例としてハシゴ登攀式のものを示している。このハシゴ登攀式の水中エクササイズ装置 5 7 は、プール槽 1 の側壁に支持される枠体 5 1 2 と、枠体 5 1 2 における柱部 5 1 2 a に取り付けられた羽根板 5 2 2 と、前記枠体 5 1 2 における柱部 5 1 2 a の内部において前記羽根板 5 2 2 の軸に接続し、上下可動に連結された上下可動棒 5 7 1 と、前記上下可動棒 5 7 1 の下端部に接続されたペダル 5 7 3 とから構成されている。

10

【 0 0 3 4 】

このハシゴ登攀式の水中エクササイズ装置 5 7 は、上下一対に連動している前記上下可動棒 5 7 1 と前記ペダル 5 7 3 が、前記羽根板 5 2 2 の軸と接続しているため、その抵抗による負荷を受けながら左右交互にペダルを押し下げる運動を繰り返すことにより、下半身の太腿四頭筋、膝腱、大臀筋、股関節屈筋、前脛骨筋、および上半身の上腕二頭筋、広背筋、前部三角筋、上腕三頭筋、腕橈骨筋などを鍛える。

【 0 0 3 5 】

図 4 は、前記負荷型トレーニングゾーン 5 0 に配置される水中エクササイズ装置の一例として水中歩行式のものを示している。この水中歩行式の水中エクササイズ装置 5 5 は、プール槽 1 の側壁に支持される枠体 5 1 2 と、これに前後揺動可能に取り付けられ、下端に運動する人が乗るペダル 5 3 2 が設けられた 2 本の揺動アーム 5 3 3 と、これら各アーム 5 3 3 の上下複数個所に取り付けられたフロート 5 5 5 とから構成されている。

20

【 0 0 3 6 】

この水中歩行式の水中エクササイズ装置 5 5 は、各ペダル 5 3 2 上に運動する人が乗って、各フロート 5 5 5 の浮力に抗しながら前後に漕ぐという運動を繰り返すことにより、下半身の太腿四頭筋、大臀筋、股関節屈筋、膝腱などを鍛える。

【 0 0 3 7 】

図 5 は、前記負荷型トレーニングゾーン 5 0 に配置される水中エクササイズ装置の一例としてボート漕ぎ式のものを示している。このボート漕ぎ式の水中エクササイズ装置 5 8 は、プール槽 1 の側壁に支持される枠体 5 1 2 と、これに取り付けられたフロート 5 2 2 と、同じく枠体 5 1 2 に支持され、先端に足掛け 5 2 3 a が取り付けられた運動する人が座るシート 5 2 3 と、フロート 5 2 2 に連結され、先端にバー 5 2 4 が取り付けられたベルト 5 2 5 とから構成されている。

30

【 0 0 3 8 】

このボート漕ぎ式の水中エクササイズ装置 5 8 は、同図のように、シート 5 2 3 上に運動する人が足掛け 5 2 3 a に足をかけて座り、前かがみ状態でバー 5 2 4 を握って、後方へ倒れながらベルト 5 2 5 をフロート 5 2 2 の浮力に抗して引張り、この後フロート 5 2 2 の浮力で前方に戻るといった運動を繰り返すことにより、上半身の僧帽筋、三角筋、上腕二頭筋、大円筋、広背筋および下半身の股関節屈筋、大臀筋などを鍛える。また、このボート漕ぎ式の水中エクササイズ装置 5 8 を用いる場合は、下半身の一部例えば太腿四頭筋、膝腱、腓腹筋、前脛骨筋などを鍛えることもできる。

40

【 0 0 3 9 】

非負荷型トレーニングエリア 4 0 には、4 種の非負荷型の水中エクササイズ装置 4 3 , 4 4 , 4 5 , 4 6 が配されている。前記非負荷型トレーニングエリア 4 0 の左側には、運動する人が把持部 4 1 をつかんだ状態で壁面からのジェット噴流を受け、運動する人の体をうつぶせ、又はあおむけに浮かすことのできる浮き身方式の水中エクササイズ装置 4 3 が配置されている。これは、リラクゼーション効果を与えることができるとともに、運動する人の姿勢の取り方により各種のストレッチを行うことができるものである。

【 0 0 4 0 】

この浮き身方式の水中エクササイズ装置 4 3 の右隣には、運動する人が座った状態で、

50

運動する人の背中、腰及び足裏に噴流を吹き付けてマッサージを行う座位マッサージ方式の水中エクササイズ装置４４が２台並べられている。座位マッサージ方式の水中エクササイズ装置４４は、運動する人が並んで座れるように配されることで、会話や社交の場を提供するものであり、運動する人の孤独感を除去するとともに、繰り返しての利用を促す効果も有する。

【００４１】

この座位マッサージ方式の水中エクササイズ装置４４の右隣には、運動する人の背中のツボを約４８の温熱ポイント４５aで刺激し、蓄積した疲労を取り除く温灸チェア４５が２台並べられている。また、図示の例のように、通常の温灸装置に加えて、頭部付近に肩口から流れ落ちる温水で全身をリラックスさせる流水装置４５b、さらに足裏付近に足裏マッサージを行うジェットノズル装置４５cをあわせ備える温灸チェアを使用すると、３種類の温浴効果と優れた低ランニングコスト、インパクトのあるデザインにより、運動する人の満足度も高まり好ましい。

【００４２】

この温灸チェアの前には、運動する人が把持部４１をつかんで立った状態にて、運動する人の身体に全体的にジェット噴流を吹き付ける、立位マッサージ方式の水中エクササイズ装置４６が配置されている。運動する人が身体の所望の個所にジェット噴流を吹き付けさせてマッサージを行うことができるだけでなく、把持部４１をつかんで体をねじるなど種々な姿勢をとることでストレッチを行うことができる。

【００４３】

リラクゼーションエリア３０には、図示の例では、遠赤外線を放射する性質を有する花崗岩を使用した岩温ベッド３０aが２台設置されている。石から発せられる遠赤外線が身体を芯から温め、身体の自然な作用により大量の発汗を促し、その汗と共に体内の有害物質を体外へ排出することができる。また、プールサイドに接して設置されているため、離れたサウナ室等に設置された場合と異なり、疲労が回復したら再びプールに戻って運動メニューを実施しようとする心理的效果を促すこともできる。

【００４４】

以上のとおり、本考案におけるアクアウェルラウンドステーションは、１つのプール槽内及びそのプールサイドに、健康増進用若しくは介護予防用に効果の高い装置がまとめて配置されているので、一連の流れの中で各種の訓練をバランス良く効率的に行える。

【図面の簡単な説明】

【００４５】

【図１】本考案の一実施形態にかかるアクアウェルラウンドステーションの全体を示す斜視図

【図２】サイクリング動作型水中エクササイズ装置を示す側面図

【図３】ハシゴ登攀式水中エクササイズ装置を示す側面図

【図４】歩行運動式水中エクササイズ装置を示す側面図

【図５】ボート漕ぎ運動式水中エクササイズ装置を示す側面図

【符号の説明】

【００４６】

- １ プール槽
- ４ 手摺り
- １０ ウォーミングアップエリア
- １０a 冷水浴槽
- １０b 温水浴槽
- ２０ ウォーキングエリア
- ２１ アップダウンゾーン
- ２２ ジェットゾーン
- ２３ 流水ジェットゾーン
- ２４ 足つぼゾーン

10

20

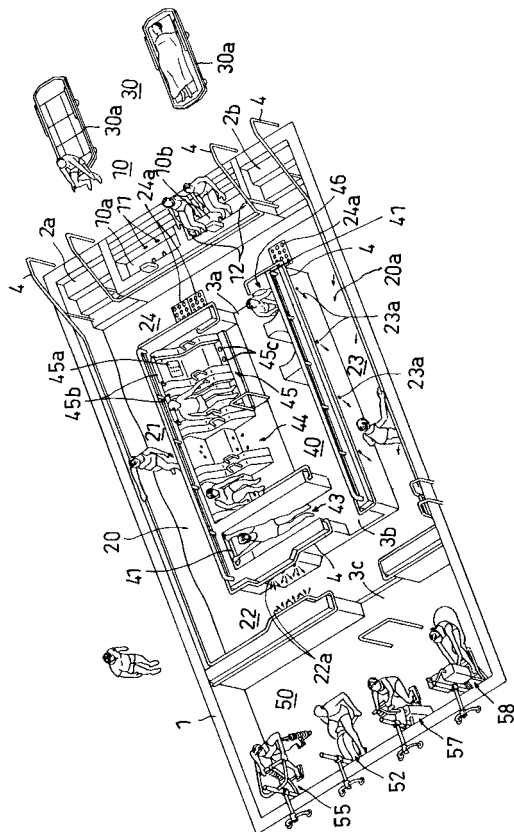
30

40

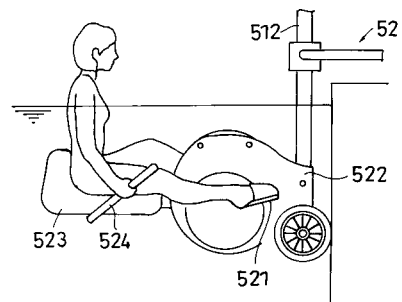
50

- 3 0 リラクゼーションゾーン
- 3 0 a 岩温ベッド
- 4 0 非負荷型トレーニングエリア
- 5 0 負荷型トレーニングエリア

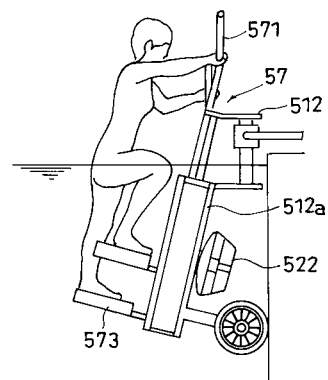
【図 1】



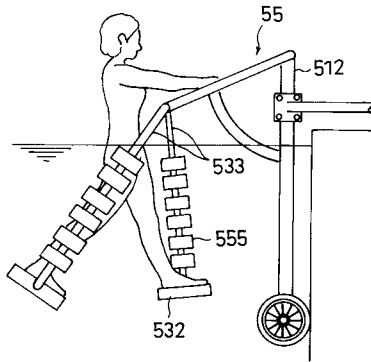
【図 2】



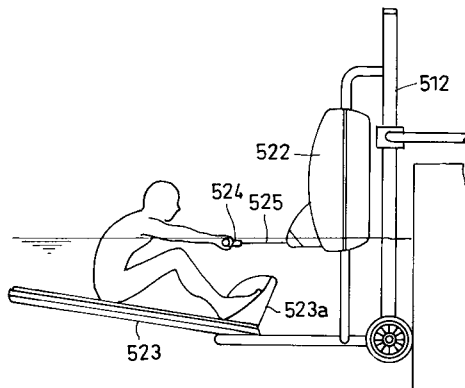
【図 3】



【 図 4 】



【 図 5 】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.

A 6 1 H 1/02 (2006.01)

F I

A 6 1 H 1/02